

西洋事情

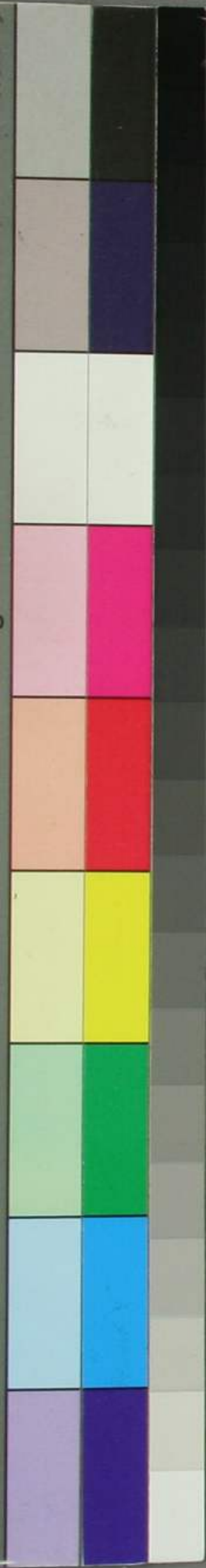
三

西垣文庫

文庫10

6580

3





西洋事情卷之三

福澤諭吉 纂輯

英國

史記



羅馬人初テ英國ニ渡来スルマテハ此國ニセルチ
 ク及ヒゴシクト云ヘル二個ノ大家族有テ國民之
 ニ服從セシト云フ羅馬帝セサルカ英國ニ来リシ
 ハ紀元前五十五年ノトニテ其後九十年ノ間ハ羅
 馬ノ害ヲ蒙ルコナク紀元後四十三年羅馬帝コロ
 チュス師ヲ起シテ英國ヲ征シ四十年ノ間ニ全ク其

西洋事情

卷之三

一

文庫10
6580
3

西洋事情 卷之三

土地ヲ押領シタリ
羅馬人此國ヲ押領ヒシヨリ諸術學ヲ傳ヘ文明ノ
道ヲ開キ國內ニ三十三都府ヲ設ケ各所ニ軍兵ヲ
屯シ街道ヲ作テ諸府及ヒ屯所ノ間ニ往來ノ便ヲ
為シ都府ノ外草昧ノ地モ爾後二百年ノ間ニ漸ク
之ヲ開拓シタリ此時ニ當テ羅馬ノ武威次第ニ衰
微シテ全國獨立ノ姿トハナリタレ凡國內互ニ爭
鬪シテ人民ノ苦難ハ却テ羅馬ノ時ヨリモ甚シト
云フ但シ此時代ノ正史ハ後世ニ傳ハラスシテ事
情ヲ詳ニシ難シ紀元四五百年ノ間ニ日耳曼ノ北

方ニサクソント云ハル人種アリテ英國ニ渡來シ
次第ニ之ヲ押領シタリ此人種ヲアングロサクソ
ント稱セリアングロサクソントハ英國ニ居ルサクソント人ノ義ナリ
アングロサクソニテハ國人ノ爵位ヲ數等ニ分
テ諸王ハ自カラ天ノ後胤ト稱シ位ヲ血統ニ傳レ
凡相續ノ定律ナシ第二等ハ「イ」ト稱シ今ノ諸
侯ノ如シ第三等ハ「セ」ト稱シ第一等ノ支配ヲ
受ク第一等ト第二等トノ爵位ノ差ハ同盟シテ事
ヲ謀ル凡第二等ノ者五人ノ同說ヲ以テ第一等ノ
者一人ノ說ニ對スベク又或ハ國法ヲ以テ刑罰ニ

西洋事情 卷之三

行ハル、ハモ第二等ノ者五人ノ命ヲ以テ第一等ノ者一人ノ命ニ當ルベシ諸侯以下數等ノ階級アリテ最下等ナルモノハ奴隸ナリ

アングロサクソンノ支配ノ間、英國ノ地ヲ分ツ法ハ第一ヲ諸侯ノ領地ト爲シ其以下ハ百戸ニ分チ又十戸ニ分チ各其主長ヲ立テ領地ニ裁判所ヲ設ケテ政ヲ施シ且其領地ニテ小吏ノ爲セルトハ善惡トモ領主ヲシテ其責ニ任セシム又此時ニハ賢明智識ノ集會ナルモノ有テ國民ノ爲政府ニ對シテ愁訴歎願スルニハ却テ官途ニ參ル評議官ヨリ

モ權威アリ案スルニ諸侯及ヒ僧官ノ貴キ者ハ此集會ニ加ハリ又國內ノ諸方ヨリモ名代人ヲ送タルトナルヘシ國王ハ此集會ノ助ヲ以テ法律ヲ施スト雖氏王位相續ノトハ國王ノ意ヲ以テ獨斷スルナリ○耶穌教ノ英國ニ入タルハ紀元後百年ノトナリシカ羅馬滅亡ノ後國內混乱シテ此教法全ク中絶シタリ紀元六百年代ノ始ニ至テ再ヒ之ヲ起シ次第ニ開化ニ赴キ以テ今日ニ至レリ

アングロサクソンノ内ツクセキスノ君エララナルモノ諸首長ト戰ヒ大ニ勝利ヲ得テ一時之ヲ威

西洋事情 卷之三

服シ紀元四百九十一年ノ頃自カラブレトワル
 ト稱セリブレトワルハ不列顛ブレトワルノ義
 ソン英國ニ渡來シテ多年ノ間諸方ヲ征服スル
 ニ當テ此人種諸處ニ割據シ各獨立ノ勢ヲナセリ
 其獨立國ノ大ナルモノハウエフセキスウエフセキスソスセキス
 ケントエスセキスケントデイレイトデイレイトイーストアングリヤイーストアングリヤノ
 一ス。ヨムベランダヨムベランダ是レナリ此七國或ハ興リ或
 ハ衰ヘ互ニ相并吞シテブレトワルブレトワルノ位ヲ傳ヘ
 リ之ヲ七國ノ世ト名ツク紀元八百三十年ニ至テ
 クスセキスノ君エグマルトナルモノ遂ニ此位ヲ

得タリ世人之ヲ英國一統ノ始祖ト稱ス
 エグマルト位ニ即クハ連國人初テ入寇セリ是レ
 ヨリ百五十年ノ間屢連國人ニ侵サレテ國內文明
 ノ進歩モ之カタメ中絶セリ且アングロサクソン
 ノ君ハ國民ト一和シテ防禦ノ策ヲ設ケス却テ内
 乱ニ時日ヲ費シ連國ノ大敵侵入スレハ僅ニ薄弱
 ノ兵ヲ出シテ防禦セシムルニ其後サクソン王
 アベルスタシ及ヒエドモントノ世ニ至リ專ラ外
 敵ヲ防キ内亂ヲ鎮静スルノ策略ヲ施シタルハ連
 人ノ勢益盛ニシテ全英國ヲ掠亂シホムブル河北

西洋事情

ノ地ニ割據シテ其近傍ニ多ク噠人ノ種族ヲ遺シ
 タリ紀元一千零十七年噠人盡ク英國ヲ押領シタ
 レル二十四年ヲ經テ一千零四十一年ニ至リアン
 グロ、カクソンノ君エドワルト之ヲ恢復シテ國位
 ニ即キタリ然レドエドワルトノ在位ハ唯名義ノ
 ミニテ英國ノ土地ハ其時ノ六大諸侯及ヒ噠人英
 人ノ酋長ニ分與シテ國王ハ唯空位ヲ守リリ一千
 零六十六年エドワルト王死シテ子ナシ初メ王ノ
 在位中ニウエスセキス侯ハロルド竊ニ謀反ヲ企テ
 リ王之ヲ察シテ死ニ臨ミ遺言シテ王ノ親族ル

マシチ侯 井ルレム ナ立テ、嗣子ト為シタリシカ
 王ノ死スルニ及テハロルド果シテ王位ヲ篡テ自
 立セリ井ルレム乃チノルマシチ アルマンチ 蘭西ノ舊地ナリ
 ヨリ大兵ヲ擧テ英國ヲ攻メ一千零六十六年ハス
 チングスノ決戦ニテ大ニ英ノ師ヲ敗リハロルド
 ヲ殺シテ英國王ノ位ニ即ケリ之ヲ「ハルマンチ」ノ一
 統ト稱シ「アングロ、ソクサシ」ノ家系ハエドワルト
 ニテ絶タリ
 ハルマンチノ一統ハ英國歴史中ノ一大變革ナリ一
 統ノ後法律ヲ改メテ王室ノ所領ヲ除クノ外ハ國

内ノ土地ヲ有功ノ武臣六萬人ニ分與シテ世禄ト
 為セリ但シ世禄ノ法ハ「サクソン」ノ世ト異ナルヲ
 ナシ石ノ如ク配分シテ英國ノ地過半ハ「ルマ」
 ノ武臣ノ采地ト為リタレド尚ラ「サクソン」人及ヒ
 連人ノ酋長ニテ土地ヲ押領セルモノ多シ此酋長
 等ハ或ハ政府ノ法令ヲ憚ラスシテ私ニ其土地ヲ
 保ツモノアリ或ハ政府ニ臣服シ政府ノ免許ヲ得
 テ之ヲ保ツ者アリ○「ルマ」在位ノ終ニ於テハ
 英國ノ人口凡ソ二百萬アリ此時ニ當テ國內北方ノ
 地ハ多ク荒廢シ且「サクソン」ノ世エドワルト王ノ

ルヨリ「ルマ」一統ノ兵乱ニ由テ諸州ノ人民過
 半ヲ失ヒタルヲハ諸書ニ記載セリ之ニ由テ考フ
 レハ「ルマ」王一代ノ間ニ凡ソ三百萬ノ人口ヲ減
 少シタルヘシ
 一千零八十四年「ルマ」死スルハ其次子第二世
 ロフス「ルマ」ニ英國ヲ與ヘ長子「ロミルト」ハ「
 ルマ」ニ遺シ置キタレハ之ニ其本國ヲ與ヘ第
 三子「マリ」ニハ母ノ遺物ヲ與ヘタリ第二世「ル
 マ」在位ノ間ハ記スヘキ大事件ナシ一千百年遊
 獵ノ時流矢ニ中テ死ス是ニ於テ英國ノ王位ハ其

兄ロベルトニ傳フヘキ理ナレ氏此時ロベルトハ
 遇パレスティン 亞細亞州ニ出師シテノルマング
 ニ在ラサルニ由リ第ヘスリ間ニ乘シテ英國王ノ
 位ニ即クコヲ得タリ之ヲ第一世ヘスリトスヘス
 リ位ニ即テヨリ元トノ「サクソ」王エドガルノ姪
 女マナリダヲ娶テ「サクソ」家ヲ同一ノ系統ニ并
 セリ○其後ヘスリハ師ヲ起シ兄ノ所領ノ「マン
 ン」ヲ攻メロベルトノ歸路ヲ要シ迎ヘ戰テ遂ニ之
 ノ禽ニシ終身獄屋ニ幽閉セリ然レモ「マリ」王ノ
 ルマングヨリ凱陣ノ「海上」ニテ唯一ノ男子溺

死シタルハ兄ニ敵對セシ罪科ノ報ヒト云フヘシ
 一千百三十五年第一世ヘスリ死シ其姪ステュー
 ン立ツ初ノ第一世ヘスリノ女子マナルダ「アンジ
 ー」ノ君「フラン」ター「ジ」ットニ嫁シテ一子ヲ生ミ之
 ヲ第二世ヘスリト名ツクステュー「フエン」在位ノ間國
 民ヘスリニ望ヲ歸シ之ヲ立テ、國王トセント欲
 スル者多シ且第一世ヘスリノタノニハ正統ノ孫
 ナルカ故ニステュー「フエン」モ之ヲ拒ムコトヲ得ヌ條約
 ヲ結テ死後ニ位ヲ傳ンコトヲ許シタリ一千百五十
 四年ステュー「フエン」死シ第二世ヘスリ立ツ第二世ハ

英國ノ王家ヲ「アンジュー」近傍ノ地ヲ取り
 佛蘭西全國ノ三分一ハ英國ニ屬セリ一千百八十
 九年ヘヌリ死シ其長子「リチャルド」立ツ一千百九十
 九年「リチャルド」死シテ子ナシ其弟「ジョン」立ツ「ジョン」
 在世ノ間ハ英國ノ政治大ニ荒廢シタリ此時ニ
 當テ佛蘭西王「フレリッポ」オ「レギヌス」チ「ス」英明ノ君ニテ
 近來英國ニ屬セル土地ヲ恢復シテ再々佛蘭西ノ
 圖版ニ併セタリ然レモ英國ニ於テハ一千百七十
 二年第二世ヘヌリノ時代ヨリ「アイラン」征伐シテ

次第ニ之ヲ押領セルカ故ニ佛蘭西ノ地ヲ失フト
 モ所得ヲ以テ所失ヲ償フニ足ルヘシ但シ「阿爾蘭」
 ヲ全ク制伏シタルハ爾後四百年ノヲナリ千二百
 十九年「ジョン」死シ太子第三世ヘヌリ年甫テ九歳
 位ニ即キ王ノ叔父「ペムブローク」侯ヲ攝ス千二
 百七十二年第三世ヘヌリ死シ太子位ニ即ク之ヲ
 第一世「エドソルト」トス○一千零六十六年「ホルマ」
 「ン」一統ヨリ第一世「エドソルド」ノ即位ニ至ルマテ
 ノ間ニ記スヘキ事件ノ大略ハ左ノ如シ「ホルマン」
 一統ノ後ハ封建世祿ノ法ヲ定メ貴族ハ各土地ヲ

領シテ其領地ノ内ヲ臣下ニ分チ與ヘテ領内ノ政
 ヲ治メ又右ノ貴族并ニ小祿ト雖也國王ヨリ直ニ
 領地ヲ賜ハル者ハ一般ニ集會シテ事ヲ議シ此會
 議ニテ定タル法律ヲ以テ國中最上ノ權トス故ニ
 貴族等ハ常ニ國民ト一和シテ其力ヲ籍リ王室ニ
 向テ爭論シ國王ヲシテ獨リ權柄ヲ專ニセシメス
 千二百十五年ジョン王在位ノ時ニ至テ「マダナ、チャ
 ルズ」大法ト云ヘル法律ヲ定メリ此法律ノ趣旨ハ
 國王ノ特權ヲ恣ニスル惡弊ヲ防クモノニテ其大
 意ハ二ヶ条アリ即チ第一ヶ條ハ凡ソ國民ニ罪アル片

ハ必ス支配ノ主人ニテ其罪ヲ吟味シ裁判シテ然
 ル後之ヲ罰スヘシトナリ此ノ條令後世ニ傳
 ヘテ時代ニ從ヒ事宜ニ應ジ次第ニ變革シテ今日
 英國ニ行ハル「トライエール、バイ、ジュリ」ノ法トナ
 レリ英國ニ行ハル裁判役ノ獨斷ニテ罪人ヲ吟味シ
 判ノ正否ヲ見テ之ヲ議論シ罪人モ其罪ニ伏シ立
 合ノ處スルナリ其裁判ニ付キ異論ナキニ至テ初テ刑
 ヲヤモ内ヲ撰ヒ置キ裁判ノ起ル毎ニ入札ヲ呼出
 其人數ノ内ヨリ二十四人或ハ十二人ヲ呼出
 シテ裁判局ニ列坐セシムルナリ此法ヲ「トライエ
 ル、バイ、ジュリ」ト云フ但シムル衆國モ同様
 ノ法ナレバ佛蘭西荷蘭等ニハ此法ナシ第二ヶ條ハ
 國會ノ大議ニテ免許スルニ非サレハ國民ヨリ軍

役ノ代トシテ金ヲ收ム可ラストノナリ此條令
ハ唯世祿ノ土地ヲ領セル貴族等ノタメニ益アル
ノミニテ國王私家ノタメニハ不便利ナリ後世ニ
至テ下院ノ議事官國內收税ノ權柄ヲ執ルノ法
ハ此條令ニ基キタルナリ○此法律ヲ定テヨリ
王室ト貴族ト互ニ權ヲ争ヒ貴族ノ勢次第ニ強盛
トナリ第三世ヘヌリノ代ニ至リレイセストルノ
君モシテナルトナルモノ一時英國ヲ支配シ千二百
六十五年諸方ノ名代人ヲ會シテ國事ヲ議シタル
トアリ即チ英國議事院ノ始ナリ○又第二世ニ

トハノ時代ヨリ政府ト寺院トノ間ニ爭論ヲ生セ
リ其事柄ハ第一寺院ノ僧官ニテ俗事ヲ取扱フコ
ト付キ政府ニテハ俗事ヲ取扱フノ權ハ王室ニア
ルカ故ニ王室ヨリ其僧官ヲ命スベシト云ヒ寺院
ニテハ此權ハ法皇ヨリ出タルモノナルカ故ニ寺
法ニ由テ自カラ之ヲ命スヘシト云フ第二衆僧ニ
罪アルハ政府ニテハ寺院ヲ支配スル權アルカ故
ニ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシト云ヒ寺院ニテハ寺
法ニ從テ之ヲ裁判スヘシト云フステイフン王ハ
第一條僧官ヲ命スルノ權ヲ寺院ニ許シタルハ第

二世ハヌリ王ハ痛ク之ヲ拒ミ寺院ノ特權ヲ奪テ
 舊法ニ復シタリ爾後又寺院ヨリ異論ヲ唱ヘ其勢
 次第ニ盛ニシテ政府ノ權ヲ壓倒スルニ至リタレ
 氏第三世ハヌリノ世ニ及テ在位ノ長キ間ニ漸ク
 寺院ノ權ヲ削キタリ○第一世エドワルト在位ノ
 間ニ國內ノ政治次第ニ整ヒ國政會議ノ様子恰キ
 現今議事院ノ風アリ即チ國內ノ貴族ハ自カラ會
 議ニ出席シ貴族以下ニテモ采地ヲ領スルモノハ
 數人ノ内ヨリ名代人ヲ出シテ會席ニ列坐セシメ
 兩局相別ル、一今ノ上院下院ノ如シ然レモ此會

議ノ人々年月ヲ經ルニ從テ次第ニ權威ヲ張リ國
 内一般ノ事務ニハ注意セシテ彼ニ國王ノ命ヲ
 拒ミ且當時ノ法ニテ貴族ノ領地ハ世々子孫ニ傳
 ヘ易ハルヲナクシテ陪臣ハ新ニ世祿ヲ與フル
 ヲ禁スルカ故ニ貴族ノ領地ハ益加増ニ世祿陪臣
 ノ數ハ益減セリ○第一世エドワルトノ世ニ於テ
 ハ寺院ノ俗權ヲ削キタレモ此事ニ付テ爭論ヲ起
 ストナシ外國交際ニ於テハ其勢甚盛ナリ又
 ルスヲ征服シ蘇格蘭ヲ攻テ殆ント之ヲ服従セシ
 ノタリヲイリスカハ英國東方ノ地ナリ從來獨立國
 此時ヨリ英ノ所領トナリ方今ニ

西洋事情 卷之三

テモ英國ノ太子ハ
 千三百零七年第一世エドワルト死シ太子位ニ即
 ク之ヲ第二世エドワルトス第二世エドワルト
 ハ父ノ業ヲ繼クヲ能ハス蘇格蘭ト戰テ敗劔シ其
 後常ニ國內ノ貴族ト不和ニシテ遂ニ千三百二十
 七年議事院ノ評議ニテ王位ヲ廢セラレ幽室中ニ
 死シタリ其子第三世エドワルト位ニ即ク年甫テ
 十四歳ナリ第三世エドワルト在位ノ間ニ起サル
 大事件ハ佛蘭西トノ戰爭ナリ其發端ハ佛蘭西國
 王死シテ嗣子ナシ其血縁ノ者ヲ詮鑿スルニエド

ワルトノ母氏イサベラ佛ヨリ英ニ嫁スルモ最近親ニテ
 佛蘭西國王ノ位ヲ繼クヘキ理ナレハ佛國ノ法律
 ニ於テ國位ニ即クモノハ必ス男子ニ限レルカ故
 ニイサベラヲ立テス是ニ於テエドワルト王議論
 ヲ起シ依令ヒ國法ニテ婦人ノ身ヲ以テハ王位ヲ
 繼ク可ラサルトモ其所生ノ男子ナレハ自カテ佛
 蘭西國ニ君臨スルノ理アリトテ兵ヲ起セリ是ヨ
 リ先キ英國ノ兵ハ蘇格蘭ト戰爭中ナレハ佛蘭西
 ノ事起ルニ及テ國人皆蘇格蘭ヲ棄テ、佛ニ向ヒ
 千三百三十七年ヨリ千三百七十四年ニ至ルマテ

西洋事情 卷之三

三十七年ノ間戦争シテ屢勝利ヲ得遂ニ佛蘭西王
 ノ生捕リ其國內ヲ掠亂シタレト到底英國ニ得ル
 所ノ利ハポルドーバヨンカレノ地ヲ押領シヤ
 ルノミ
 第三世エドワルトノ世ニ於テハ士風一而目ヲ致
 ソテ次第ニ文明ニ進ミ又後來ハルマシヤ人トサク
 ヲン人トノ間ハ動モスレハ不和ナリシカトモ佛
 蘭西トノ戦争起テヨリ一般ニ人氣ヲ引立テ却テ
 國內一敗シ初テ大英一國ノ風儀ヲ成シサクソ
 ノ言語ニ次第ニ變化シテ英語トナリ文學大ニ進

ミタリ
 千三百四十九年惡疫大ニ流行シテ國內ノ人口過
 半ヲ亡ヒコレヨリ諸役夫職人ノ賃銀騰貴セシニ
 舟々官府ヨリ命ヲ出シ古來ノ割合ヲ以テ賃銀ヲ
 取ラシメントシタレト人心之ニ服ヒ人依テ又嚴
 法ヲ設ケ賃銀ノ高下ハ自然ニ任セテ官府ヨリ妨
 ルーナシト雖モ都テ六十歳以下身體強壯ニシテ
 活計ナキモノハ他人ノ求ニ應ニテ奉公セサルヲ
 得ス若シ之ヲ拒ムハ罪ニ行ヒ且奉公ノ年期中
 一 出奔シテ他國ニ遁ルモノアレハ直ニ之ヲ召

西洋事情

卷之三

十一

捕へ其前額ニ奔ノ字ノ焼印ヲ押セリ又此時ニ於
 テハ佛蘭西トノ戦争ニ由テ軍費足ラサルニ付キ
 其後通用金ノ位ヲ低クセシカ故ニ物價騰貴ニ從
 テハ職人ノ賃銀モ増スヘキ筈ナレト亦之ヲ禁シ
 徒ニ官府ノ命ヲ以テ物價ヲ定メ其弊ヲ救ハント
 シタレト不便ヲ以テ不便ヲ救フノ策ニテ時勢ニ
 益アルトナシコロヨリシテ次第ニ國內ノ人心ヲ
 失ヒ第三世エドワルト在位ノ間ハ無事ナリシカ
 其嗣子第二世リチャルドノ世ニ至テ内亂ヲ生シ千
 三百九十九年王ノ叔父ランカストルノ君ヘスリ

兵ヲ擧ケリチャルトヲ廢シテ自立ス之ヲ第四世ヘ
 スリトス此君ハ生來才カアレト寡立ノ後國內常
 ニ穩静ナラス但シ議事堂ノ法ヲ脩メ上下兩院ヲ
 一和セシメタルハ在位中ノ大功ナリ第四世ヘス
 リ死シ太子立ツ之ヲ第五世ヘスリトス第五世
 スリ王位ニ即テヨリ祖先ノ志ヲ繼テ佛蘭西ノ國
 位ヲ兼ントシ兵ヲ起シテ之ヲ攻メ多年ノ間戦争
 シテ第六世ヘマリノ世ニ至テハ大ニ佛ノ兵ニ克
 テ殆ント其國ヲ押領セントスルノ勢ナリシカ本
 國ノ内亂ニ由テ遂ニ兵ヲ引キタリ○初ノ第四世

西洋事情 卷之三

ヘスリノ死スルキ其嗣子アレバヨルクノ君リキ
 ルト國位ニ即クヘキ正統ナリトテ兵ヲ舉ケテラ
 シカストル家ト戦ヒ四十年ノ間五ニ勝敗アリ
 世ヘスリハラシカストルヨリ起ルヲ以テ第四
 世ヨリ第六世ヘスリニ至ルマテヲラシカストル
 家ノ世千四百八十五年ヘスリ、チュートルチ
 ト起テラシカストルノ家系ヲ續キヨルク家ノ女ヲ
 娶テ國內一統ニ歸ス之ヲ第七世ヘスリトス○第
 七世ヘスリノ世ニ於テ記スヘキ大事件ハ封建世
 祿・貴族ヲ壓伏シテ其權ヲ削ラル一條ナリ英國
 舊來ノ風習ニテ國內ノ大貴族多ク家來ヲ養ヒ私

ニ攻伐防禦ノ備ヲナシテ國內ニ威權ヲ張リ他
 事論ノ一アレハ家來ハ各其君ヲ助ケ裁判所ニ出
 テ之ヲ辨論スルノミナラヌ甚シキニ至テハ國法
 ヲ犯ストモ君ノ威權ヲ藉リ罪ヲ遁ルヘキヲ知テ
 君ノ仇トスル所ノ人ヲ襲撃スルコアリ或ハ又此
 家來等君ノ手ヲ離レテ浪人スルコアレハ他ニ活
 計ノ路ナク強盜ヲ以テ事トナシ英國内乱ノ間ハ
 其乱暴殆ント極度ニ至レリヘスリ王位ニ即テヨ
 ソ意ヲ決シテ此惡弊ヲ除カント欲シ種々其處置
 ヲ施シタルニ遂ニ又戰爭トナリ國內ノ貴族ト戦

西洋事情

卷之三

十四

テ大ニ克チ一時ニ其權柄ヲ奪ヒ又隨テ其家ヲ没
 入シ大貴族ノ滅ルモ、甚多シコレヨリシテ貴族
 ノ勢威全ク地ニ墜チ且其風俗次第ニ游惰ニ流レ
 其領地ノ者ヲ武役ニ用ユル代トシテ領内ヨリ金
 ヲ出サシムルニ至テ身賤ノ小民自カラ武事ヲ廢
 シテ工業ヲ勉メ王室ノ法律ヲ尊奉セリ都テハ又
 リ王ノ政ハ強大ヲ制壓スルノ趣旨ナレ氏隨テ又
 弱小ナル下民ヲ撫育シテ其所ヲ得セシムルカ故
 ニ貴族ヲ滅シテ徒ニ王室ノ特權ヲ張ルルニハ
 非リレナリ第七世ヘマリ死シテ太子立ツ之ヲ第

八世ヘマリトス○第八世ヘマリ故アリテ其妃ヲ
 離別セントシテ羅馬法皇ノ許ヲ得ス依テ法皇ト
 信ヲ絶チ自カラ諸寺院ノ統領ト稱セリコレヨリ
 先キ日耳曼及ヒ瑞西ニ於テプロテスタン方今ト
 人ノ唱ルル耶蘇正教ナルモノニテ西洋ノ宗門起テ英國
 天主教ヲ改宗シタルモノト云フノ宗門起テ英國
 ノ人民之ニ歸依スルモノ多ク寺院ノ學僧ニ竊ニ
 之ヲ信仰セシカハ此度國王ト羅馬法皇ト不和ヲ
 生スルニ至テ朦昧ノ小民ハ益羅馬ノ天主教ヲ惡
 ミ且又強暴ナルモノハ天主教ノ寺ヲ毀テ財物ヲ
 掠奪スルヲ悦ヒ之カ為プロテスタントノ宗門次

第二國中ニ弘マリタリ國王モ從來此ノ宗旨ヲ信
 スルニハ非サレモ自カラ寺院ノ統領ト稱シテ羅
 馬ニ敵對セルカ故ニ止ムヲ得スシテ國人ノ改宗
 スルヲ許セリ千五百四十七年第八世ヘヌリ死シ
 テ其一子エドワルト立ツ之ヲ第六世エドワルト
 トス年甫テ九歳ナリ○エトワルトハ大ニゴロテ
 スタントノ宗門ニ歸依シ國內ノ教化次第ニ盛ナ
 リシカ千五百五十三年不幸短命ニシテ死ス年十
 五歳ナリ死後其姉マリ立テ女王トナル○此女王
 ハ專ラ天主教ヲ信シテゴロテヌスタントノ宗ノ者ヲ

痛ク追捕シ國內宗門ノ為ニ命ヲ落スモノ二百人
 餘ナリト云フ即位ノ後西班牙王第二世ヒリッスノ
 配偶トナリタル氏子ヲ千五百五十八年死シテ
 異腹ノ妹エリザベット立ツエリサミットハ元來ア
 ロテヌスタントノ教ヲ奉スレモ其宗派ノ人ノ跋扈
 スルヲ嫌ヒ強テ其宗門ニ左祖セサルカ故ニ天主
 教ノ人モ憤懣スルヲクシテ却テ互ニ一致セリ
 ○封建世祿ノ法次第ニ廢止セシヨリ國內ニ於テ
 土地ヲ所持セル者ハ新地ヲ開拓シテ其領分ヲ弘
 ムルノ望ヲ絶テ專ラ其身一代ノ間ニ蓄財スルヲ

ノミヲ勉ルカ故ニ開墾スヘキ土地ニ至ラ荒蕪
 ニ屬シ之カ為小民産業ヲ失テ他國ニ流移スルモ
 多シ又亞米利加ノ金坑ヲ發見セシ以來通用金
 位非常ニ下落シ隨テ諸品物ノ價俄ニ騰貴シテ
 諸民困窮セリ固ヨリ物價ノ騰貴スルニ準シテ
 雇賃銀モ増シタレル物價ノ割合ニ應セテシテ
 論穩カナラサルカ故ニ政府ヨリ屢法令ヲ出シ遂
 ニ千六百零二年救貧ノ大新法ヲ立テリ○エリサ
 マットノ世ニ於テハ英國ノ武威内外ニ耀キ阿爾蘭
 千四百年前初テ征服シタレル此ノ時ニ至テ其服

從スルテ益固ク且又國人航海ノ術學モ一時ニ開
 ケテ大ニ進歩シタリ千六百零三年エリサット死
 シテ子ノシ是ニ於テ蘇格蘭ノ王第六世ゼームス
 骨肉ノ故ヲ以テ英國王ノ位ヲ嗣キ改テ第一世ゼ
 ームスト稱セリコレヨリ兩國一統ニ歸シ國ヲ大
 不列顛ト名ケ阿爾蘭ヲ併セテ合衆王國ト稱ス○
 一ハムス王在位ノ間ハ内外無事ニシテ國民太平
 德澤ヲ蒙リ亞米利加ノ地方ヲ開拓シテ英國ノ
 所領トナシタルモコノ時ヲ以テ始トス但シ王ノ
 為人器量偏小ニシテ私欲多シ常ニ議事院ト權柄ヲ

西洋事情 卷之三

廿七

争、在位二十四年ノ間其爭論止ムヲナシ千六百
 二十五年死シテ太子立ツ之ヲ第一世「チャールスト
 ス」コノ時ニ當テ議事院ノ威權次第ニ盛大トナリ
 諸州ヨリ名代人ヲ出シテ國政ヲ會議シ上下各其
 所ヲ得衆庶富饒ニ至リタレ氏國王ハ議事院ノ盛
 ナルヲ忌ミ其權柄ヲ奪テ王室ノ威ヲ張ラント欲
 シ即位後四年ノ間ニ三度議事院ノ會議ヲ設ケシ
 カ爾後、之ヲ廢セリコレヨリ物論蜂起シ之ニ加
 フルニ國內宗旨論ニテ各處ニ徒黨ヲ結ビ互ニ相
 争闘ニテ殆ニト間日ヲシ是ニ於テ止ムコトヲ得ス

議事院ヲ再興シタレハ遂ニ國乱ヲ救フコト能ハス
 千六百四十九年議事院ノ定議ニテ國王ノ位ヲ廢
 シテ國ヲ合衆政治トシ「ロムエル」ナル者國議
 總督ノ名ヲ以テ收權ヲ專ラニシ内外ト戰テ屢功
 アリ千六百五十一年「ロムエル」死シ其子總督ノ
 職ヲ辞スルニ及テ千六百六十年國人共ニ第一世
 「チャールスト」ノ子ヲ奉シテ國王トナス之ヲ第二世「チャ
 ールスト」名ツク千六百八十五年第二世「チャール
 ス」死シテ其弟立ツ之ヲ第二世「ロムエル」トス「ロム
 ス」位ニ即テヨリ父兄ノ遺風ニ從テ天主教ヲ奉信

シ他宗ニ歸依スルモノヲ惡ム_一甚シク之ニ由テ
 人心ヲ失ヒ國內又亂ル_二ゼームス_三ニ女一男ヲ生ム
 長女ヲマリト云ヒ荷蘭國合衆政治ノ大統領ヲラ
 ニ_一侯_二井ルレム_三ニ嫁ス次女ヲアンナト云ヒ男子
 第三世_一ゼームス_二ナレヒ幼少ナリ此時ニ於テ國
 内ノ_一プロテスタント_二宗_三ニ從フモノハ皆國王ノ忌
 諱ヲ觸ル自カラ其生ヲ安スル_一能ハサルヲ以テ
 多クハ荷蘭ニ出奔シテ竊ニ_一ヲ_二ラニ_三侯_四井ルレム
 ニ_一依賴ス_二井ルレム_三乃チ_四プロテスタント_五宗ノ人ヲ集
 メテ兵ヲ擧ケ英國ニ向テ其舅氏_一ゼームス_二ヲ攻メ

シニ國人固ヨリ王ノ暴政ヲ厭ヒシ_一ナレハ敵ヲ
 防クモノトテハ一人モナク國王ノ平生ヨリ頼ミ
 ニセシ兵卒等モ戈ヲ倒ニシテ後ヲ伐ツノ勢ニテ
 王ハ遂ニ佛蘭西ニ出奔セリ于時十六百八十八年
 ナリ是ニ於テ議事院ヨリ國內ニ布告シゼームス
 王ノ位ヲ廢シ井ルレムヲ奉シテ英國王トナシ第
 三世_一井ルレム_二ト稱ス_三井ルレム_四ハ元ト荷蘭合衆政
 ノ位ニ昇タルカ故_一井ルレム_二王位ニ即テヨリ國
 兩國一君ノ姿ナリ_一井ルレム_二王位ニ即テヨリ國
 法ヲ寬ニシ議事院ノ權ヲ重クシ王室ノ特權ヲ張
 ル_一舊弊ヲ除キ宗門ノ議論ヲ鎮靜シ五十年来ノ

國亂ヲ一掃シテ英國ノ歴史更ニ面目ヲ新ニセリ
井ルレム在位ノ間佛蘭西王第十四世ロイス天主教ヲ奉信シプロテスタントノ人ヲ追捕スルヲ嚴刻ナルニ付キ英人ノ同宗ナルモノハ遙ニ之ヲ憤リ且佛蘭西王元トノ英國王ゼーハスノ一族ヲ助ケテ其家ヲ恢復セントスルヲニ付キ遂ニ英佛兩國不和ノ起シテ戰爭ニ及ヘリ○井ルレム王ノ世ハ國內ノ貿易次第ニ繁盛シ人口益増加ス百年前ハ龍動英國ノ人口二十五萬ナリシニ當時ハ之ニ一陪シテ五十萬餘ニ至レリ○千七百零二年

第三世井ルレム死シテ子ナシ王妃マリノ妹アント立ツ千七百十四年死シテ子ナシ初ノ井ルレム在世ノ時議事院トノ商議ニテ法ヲ立テ第二世ゼーハスノ一族及ヒ其他天主教ヲ奉スルモノハ王室血統ノ子孫ト雖ハ後來國王ノ位ニ昇ルヲ禁スヘント誓ヘリ此度女王死シテ嗣子ナキニ及テプロテスタントノ宗門ニ歸依スル王族ヲ探索スルニ第一世ゼーハスノ曾孫ハノーウ日耳曼列國ノ名君ジョージナルモノ最モ近戚ナルヲ以テ乃チ之ヲ迎ヘテ王位ニ即カシ第一世ジョージト名ク但

西洋傳

卷之三

シ第一世ビームス即位ヨリ以來王室ノ姓ヲ「ス
 フルト」家ト稱セシカ第一世ジョーシヨリ後ハ政
 ハ「ノ」ウ「ル」家ト唱ヘリ千七百二十七年第一世
 「ジ」死シテ太子位ニ即ク之ヲ第二世「ジョー」トス
 王ノ宰相「ロ」ニ「ト」ル「ボ」ル「ル」モ第一世「ジ
 シ」世ヨリ力ヲ盡シテ王室ヲ補佐シ蘇格蘭ノ
 叛賊ヲ平ク蘇格蘭ノ叛賊トハ「ス」ル「ド」人
 心ヲ鎮靜シ第一世「ジョー」即位以來十二年ノ間國內太
 平無事ニシテ諸民其德澤ヲ被ル、專ラ宰相ノ力
 アリ千七百三十九年ニ至テ英國ノ貿易商人等西

班牙人カ亞米利加ノ地方ニ於テ貿易ノ利ヲ專ラ
 ニスルヲ憤リ遂ニ兩國ノ怨ヲ結テ戰爭ニ及ヒシ
 カ平生不逞ノ輩此釁ニ乘シテ宰相ヲ讒シ遂ニ其
 位ヲ黜ケタリ○千六百六十八年ノ騷亂ニテ第二
 世「ビームス」ヲ放逐セシヨリ國內ノ人民王ノ不幸
 ヲ追想シテ竊ニ徒黨ヲ結ヒ「ス」チ「ル」ド家ヲ再興
 シテ舊時ノ政治ニ復セント欲スルモノアリ且佛
 蘭西ニテモ「ビームス」ノ一族ヲ扶助シテ常ニ英國
 ノ釁ヲ窺ヒシカ此度西班牙トノ戰爭ニ引續キ國
 内穩カナラサルヲ好機會トシ千七百四十五年第

二世ビームスノ孫エドワートナルモノ、佛蘭西ヨ
リ起テ蘇格蘭西北ノ地ニ渡リ其土地ノ貴族ヲ集
メテ兵ヲ舉グシニ從來其家名ヲ連慕スル輩蜂起
雲集シテ之ニ應シ一時ニ兵勢ヲ得漸ク南シテ英
國ノ本領ニ攻入りタレ本領ノ人ハ之ニ與ミス
ルモノ少ク且佛蘭西ノ應援ヲキヲ以テ遂ニ復タ
蘇格蘭ニ引キコロトデシニ於テ官軍ト戦ヒ遂ニ
敗走シタリ從來蘇格蘭ノ貴族ハ世祿ナリシカ今
般ノ騷乱平定シテ後政府ヨリ其爵祿ヲ奪ヒ痛ク
之ヲ壓伏シコレヨリ國內擾亂ノ患ナシ蘇格蘭兵

乱ノ後千七百四十八年英佛其他歐羅巴諸國互ニ
和睦ヲ結ビ日耳曼ノアキステヤツブルト云ヘル
所ニテ同盟シタレルコノ和約遂ニ益ナシ此時ニ
於テ英國海軍ノ勢名次第ニ盛ニシテ遂ニ歐羅巴
諸國ニ冠タルニ至リシカハ佛蘭西ハ其海軍ノ威
權ヲ英ニ奪ハレタルヲ憤リ之ヲ恢復シテ海外
所領ヲ廣クセント欲シコレヨリ英佛ノ間ニ隙ヲ
生シ又同時ニ普魯士ト墺地利トノ戦争ニ未ダ収
ラズ歐羅巴各國ノ事體紛擾或ハ合縱シテ英ヲ攻
メ或ハ連衡シテ佛ヲ敗リ遂ニ全州ノ大騷乱トナ

リ十七百五十六年ヨリ七年ヲ經テ漸ク平和ニ復シタリ世人之ヲ七年ノ師ト唱フ千七百六十年大戦争ノ央ニシテ第二世ジョージ死シ其孫第三世ジョージ立ツ戦争ノ初ヨリ英國ノ宰相チャツサム・ピットナルモノ文武兼備ノ才徳ヲ以テ内外ノ事ヲ處置シ英國ノ兵常ニ勝利ヲ得テ其威名世界中ニ耀マシカ第三世ジョージ位ニ即クニ至テコノ宰相ヲ信用スルヲ能ハス遂ニ之ヲ退ケ他人ヲ擧テ其職ニ代ハラシメヨリ英國ノ武威俄ニ衰微シテ七年ノ師ノ終ニ至リ各國ト和約ヲ結テ英國ハ北亞

米利加ノカナダヲ取リ○七年ノ師平定シテ後ハ海外所領ノ地ニ於テ人民次第ニ繁殖シ亞米利加ニ在ル領地ノ内カナダヲ除キ其余ノ地方ヲ分テ十三州トナシ其人口二百五十萬ニ及ヘリ其外東印度並ニ西印度諸島ノ地ニ次第ニ開拓シテ富饒トナレリ○第一世ジョージノ世ヨリ以來英國内ニハ記スヘキ大事件ナシ連年五穀豊熟シテ下民安樂ヲ極ノリ千七百十五年ヨリ千七百六十五年ニ至ルマテ五十年ノ間ニ凶年僅ニ三次小麥ノ價千六百年代ニ比スレハ半價ヨリ少シク貴キノミ

人口ハ甚ク増加セズ千七百二十年國內ノ人員五百三十萬ナリシモノ十七百六十年ニ至テ六百四十萬人トナレリ故ニ職人役夫ハ日傭錢ヲ以テ自カラ富ヲ成シ更ニ苦情ヲ訴ルモノナク國內一般ノ風俗文明ニ赴キ禮義ヲ重シシ次第ニ粗暴ノ舊習ヲ脱セリ○第三世ジョージノ世ニ至テ國民産業ヲ脩ノエ作ヲ勉メ益富饒ヲ致シテ數年ノ間俄ニ全國ノ風ヲ一變シ人々皆門閥ヲ貴フノ政ヲ嫌テ自カラ不羈獨立ノ意ヲ生シ議事院ニテ國政ニ關ル者ノ内ニモ亦此黨ノクマリテ尊ヲ下民ヲ寬裕

ニシ門閥ニ關ラサルノ説ヲ唱ヘシカハ政府ノ命ヲ以テ此黨ノ長タルブルクスヲ議事院ヨリ黜クアリコレヨリ國民不和ヲ起シ遂ニ一大事件ノ緒由トナレリ從來英國ニテ法ヲ寬ニシ門閥ヲ廢スルノ説ハ千六百五十年代ノ比ヨリ盛ニ行ハレテ其黨ノ人北亞米利加ノ領地ニ住居スル者多カリシニ此度本國ニテ同黨ノ黜ケラレタルヲ聞テ既ニ同情相憐ムノ意ヲ生シ之ニ加フルニ當時遇テ英國政府ヨリ亞米利加諸州ヘ加稅ヲ取ルノ命令ヲ下タセシカハ州民大ニ憤怒シ遂ニ千七百七十六

年兵ヲ擧テ本國ニ叛キ獨立ノ檄文ヲ布告シタリ
亞米利加ノ叛賊ハ其勢固ヨリ強盛ナルモ兵威ヲ
以テ之ヲ壓伏ス可カラサルニ非ザレバ佛蘭西、西
班牙荷蘭ヨリ竊ニ其聲援ヲヲシ且英ノ本國ニテ
モ他ノ歐羅巴諸國ト戰爭起リ内外ノ事多端ニシ
テ賊徒ヲ征服スルヲ能ハス千七百八十三年ニ至
テ遂ニ和約ヲ結ビ亞米利加ノ獨立合衆國タルヲ
許シタリ○亞米利加戰爭ノ代英國ノ宰相ロルト
ノル、專テ軍務ヲ司リテ大ニ人心ヲ失ヒ又同職
モロムス、フラクス、ハ從來亞米利加戰爭ノ一二月

ノル、ノ説ト相反シテ互ニ歡ヲ失ヒシカ戰爭ノ
終ニ至テ再々相和シ議事院ノ官員中ニテ最モ權
威アル貴族輩ヲ引テ徒黨ヲ結ビ相共ニ謀テ王室
ノ權ヲ削テ議事院ヲ盛大ニセント欲シ新令ヲ建
テ印度地方ヲ議事院ノ支配ニ屬セントセシカハ
王ハ固ヨリ此徒黨ヲ惡ミシヲレハ此度新令ヲ
出サントセシテ宰相等ノ罪ニ歸シテ之ヲ黜ケテ
ツサム、ピット 第二世 シヨノ少子 キルレム、ピットヲ用
ヒテ事ヲ任セリ然ル所議事院ノ下院ニテハ議論
蜂起シ皆其命ニ服スルモノナク事情甚困難ナリ

シカ氏ビットハ既ニ王ノ委任ヲ受ケ且國內ノ人心痛クノルヌノ徒黨ヲ惡ミ又裁判局ニテモビットノ説ニ左祖セシカ故ニ此機會ニ乘シテ遂ニ大事業ヲ達シ議事院ヲ一掃シテ下院ノ異議ヲモ論破シ新ニ其法ヲ改ムコトヲ得タリ此時ビットハ年二十四歳ナリコレヨリ新宰相ノ威名國內ニ行ハレ尚又人オヲ擧テ各其所ヲ得セシメ共ニ國事ヲ議シ之ニ由テ從來不逞ノ輩モ次第ニ宰相ノ處置ヲ悅フニ至リ任職ノ後十年ノ間國內周ク太平ノ徳澤ヲ被リタルハ宰相ビットノ力ナリ○千七百五十年ヨ

リ千七百七十年ノ間ニ英國内ニ大土エノ起シテ水道ヲ通シ運送ヲ便ニシ千七百六十七年ニハルグリーク氏紡績ノ機關ノ發明シ千七百六十九年ニハワット氏ノ發明ニテ蒸氣機關ヲ改正スル等エ作製造ノ法術一時ニ進歩シタルヲ以テ貿易商賣ノ交、俄ニ繁昌シ第三世ジョージ即位ノ比ハ英國一歳輸出品ノ高千五百萬ポンドナリシカ佛蘭西騷亂ノ初ニ至テハ其高増シテ二千五百萬ポントニ上レリ但シ國債ハ亞米利加戰爭ノ故ヲ以テ昔日ニ比スレハ一倍ヲ増セリ○拿破崙ノ騷亂ハ千

八百二年アミーンノ和睦英佛和睦ヲ以テ中期トナ
シ此和睦ノ前ハ英ノ海軍武威ヲ振テ佛蘭西荷蘭
ノ海外所領ヲ奪却シタレ且陸兵ハ常ニ佛蘭西ニ
破ラレ嘗テ勝利ナシ和睦ノ後ニ至テ宰相ピットノ
處置皆其功ヲ奏セス然レ且亦斷然トシテ佛蘭西
ノ指揮ヲ受ルノ意ナシ進退コ、ニ窮テ他人ニ職
ヲ讓リタレ且八百三年佛蘭西トノ和睦破ル、
ニ及テ再ニ職ニ歸リタリ○宰相ピット在職中ノ大
功ハ阿爾蘭ヲ合併シタル一事ナリ阿爾蘭ハ昔年
ヨリ英ノ所領タレ且本國政府ヨリ官吏ヲ遣テ其

土人ト政ヲ議シ自カヲ別政府ノ姿ヲ為シタリシ
カ十七百九十八年其部内ニ騷乱起リタルヲ以テ
宰相ピット其機ニ乘シ全ク之ヲ制伏シテ其別政府
ヲ廢シ新ニ法ヲ定メ阿爾蘭ヨリ人物百名ヲ撰擧
シテ下院ノ議事官トナシ亦上院ノ議事官ヲモ撰
擧スルノ例ヲ立タリ○再ニ佛蘭西トノ和ヲ破リ
シトキ英國ハ奧地利魯西亞オーストリアシシリ國ト同盟シ佛
ノ兵ト戰テ屢利ナシ十八百五年タラハルガル岬
ノ内ニ於テハ英ノ水師提督子ルツン佛蘭西西
班牙ノ軍艦隊ヲ破滅シタレ且同年日耳曼ノオ

ストルリツツニ於テ奥魯ノ兵拿破崙ノ為ニ破ラレ
 ナヨリ同盟ノ兵勢遂ニ振ハス拿破崙ハ其兵ノ向
 フ所天下ニ敵ナク意氣充満シテ遂ニ又西班牙ヲ
 伐テ之ニ勝テ國王及ヒ王族ヲ廢シ其弟ジョーゼフ
 ヲ佛蘭西ヨリ迎立テ西班牙王トナシタリ蓋シ西
 班牙王ハ佛蘭西ノ先王ト同族ニテ「ボルボン」姓ナ
 ルカ故ニ拿破崙ノ私心ヲ以テ之ヲ惡ムナリ西班
 牙ノ王族廢滅セラレテヨリ其國民拿破崙ノ強暴
 ヲ憤リ王室ヲ恢復セントテ兵ヲ擧テ佛蘭西ニ叛
 ナシカハ英國ハ之ヲ好機會トシ西班牙人ヲ煽動

鼓舞シテ軍用金ヲ與ヘ兵ヲ貸シ相共ニ盟約シテ
 佛蘭西ノ寇ヲ防キタレハ佛軍強盛ニシテ其鋒ニ
 當ル可ラス次テ英國ノ將軍「エルリントン」同盟ノ
 兵ヲ指揮スルニ及テ事體一變シタリ○「エルリン
 トン」ハ千七百六十九年阿爾蘭ニ生レ少年ノ時ヨ
 リ佛蘭西ニ遊テ兵法ヲ學ヒ千七百八十七年仕テ
 英國歩兵隊ノ士官トナリ千七百九十七年東印度
 ニ行テ其土人ト戰テ功アリ千八百五年英國ニ歸
 リ連國及ヒ葡萄牙ノ為ニ戰テ勝利ヲ得各國ヨリ
 非常ノ褒賞ヲ受ケ尚又此度ヒ西班牙及ヒ英國ノ

將軍ト為テ同盟ノ兵ヲ指揮シテ佛蘭西ト戰テ屢
之ヲ破リ千八百十三年ウットリヤノ一戰ニテ盡ク
佛蘭西ノ兵ヲ西班牙ヨリ追ヒ出シタリコレヨリ
先キ拿破崙四十五萬ノ兵ヲ卒ヒテ魯西亞ヲ攻メ
シニ飢寒ノ為多ク兵卒ヲ失ヒ僅ニ殘兵ヲ集メテ
佛蘭西ニ歸リコレヨリ各國ノ兵再ヒ蜂起シ力ヲ
合セテ佛ヲ攻メ千八百十四年遂ニ拿破崙ノ位ヲ
廢シテエルク島ニ流シタリ翌年ノ春拿破崙エルク
島ヨリ歸テ再ヒ兵ヲ起シタルヲ以テ英國ノ將
軍エーリントン同盟諸國ノ兵ヲ指揮シワトリル

口一 於テ佛ノ兵ト戰テ大ニ之ニ克テ拿破崙ヲ
捕テシントンヘレヒ島ニ流シ多年ノ騷亂初テ平定
シタルハエルリントンノ武功ト云フヘシ是ニ於
テ英國ハエルリントンヲ以テ全權使節ト為シ各
國ノ使節與地利ノ首府ウヰルンナニ會同シテ和
約ヲ結ヒ各其侵地ヲ舊ニ復シタリ拿破崙ノ騷亂
ニ於テ英國ハ唯其侵入ノ害ヲ被ラサルノミニテ
戰爭ニ由テ得ル所ノモノハ甚少シ戰爭ノ間ニ押
領シタル荷蘭ノ所領瓜哇及ヒ其他ノ領地モ皆其
舊主ヘ返シタリ

多年戦争ノ間英國内ヨリ官ニ收納スル貢税ノ高
 甚多シ騷乱ノ終ニ至テハ一歳入税ノ高六千萬
 シトニ近ク海陸ノ軍役ニ出ル者五十萬人許ナリ
 毎歳右ノ税額ヲ收納スルノ外ニ國債ノ増シタル
 一六億ポント余ニ上レリ國用ヲ費スル斯ノ如ク
 莫太ナレトモ千八百三年ヨリ千八百十五年ノ間ハ
 國內最モ富饒ヲ致セリ蓋シ其故ハ一ニハ國民皆
 騷乱ノ禍ニ羅リ止ムヲ得マシテ工業ヲ勤ムル
 ト一ニハ騷乱ノ以前ヨリ蒸氣機關等ノ學術俄ニ
 進歩シテ製造ノ工業大ニ便利ヲ得タルトニ由テ

ナリ

第三世ジョージ在位ノ終ニ至リ年既ニ老ヒテ事務
 ニ倦ミ内外ノ政事ハ皆太子ニ委任セリ千八百二
 十年死シテ太子立ツ之ヲ第四世ジョージトス
 十年ニシテ死シ其弟位ニ即ク之ヲ第四世井ルレ
 ハトス佛蘭西騷乱ノ後ハ歐羅巴州内都テ平穩ニ
 シテ英國ニモ記スヘキ大事件ナシ千八百三十七
 年第四世井ルレ死シテ子ナシ由テ第三世ジョー
 ジノ子ケント侯ノ女子フレクトリヤヲ立ツ即チ現
 今ノ英國女王ナリ
 阿片始ホト云フ書ニ英國女王
 姉船將ト爲テ攻入タルヲ支

那ニ生捕リ云々ト記タリ然ルニ
 テント侯ノ一女子ニテ兄弟姉妹
 ハ十百四十ノ比ニテ女王ノ年ハ
 ナリ其妹ナシハ十七八歳ノ女子
 支那ヲ攻タルハ安説ノ甚シキナ
 人ノ著シタル夷匪犯疆録等ノ書
 ナリ學者謹テ之ニ惑フ可ラス
 ヨリ英國人阿片ヲ支那ニ輸入シテ
 賣買スルヲ支那ノ官吏憤怒シ英斷
 ヲ禁セント欲シ英國ノ「カビタ」
 切カシテ價三百萬ポンドノ阿片ヲ
 之ヲ燒棄ソリ事遂ニ戰爭ニ及ビ支
 英ノ為ニ廣東寧波及ヒ舟山島ヲ取
 和議

ヲ乞ヒ香港ヲ割テ英ニ與ヘ五港ヲ
 商賣品ヲ燒棄タル償金トシテ二千
 一三年賦ニ約束シテ英國へ與ヘタ
 英人ハ香港ヲ開テ貿易場トナシ今
 繁盛ニ至レリ

政治

英國ノ政治ハ年代ニ從テ變遷シ其
 實驗トニ由テ體ヲ成セルモノニテ
 政治ノ本論ヲ立テ次テ之ヲ實地ニ
 ラス唯知ラス識ラスシテ今日ニ至
 其景況ヲ見

ルニ嘗テ先見ノ識アリテ後世ヲ慮レルカ如シ殆
 シト是レ人カニ非ラス天ノ然ラシムル所ト云フ
 ヘシ又道理ヲ以テ論スレハ斯ク自然ニ任シテ人
 意ヲ交ヘサル政治ニ於テハ必ス乱雜ノ事アル可
 キニ却テ然ラサルハ識者モ辨解スルヲ能ハス○
 其政體、血統ノ君主、國內ニ號令スルノ權アレハ別
 ニ法律アリテ君主ノ權ヲ抑制ス此法律ハ三局ヨ
 リ出ルモノナリ即チ三局トハ王室ヲ第一局トシ
 上院ヲ第二局トシ下院ヲ第三局トス三局ノ内、國
 王ノ位ヲ最上ト定ムレハ最上ノ權アルニ非ラス

上院下院ハ各別局ニ於テ事ヲ議シ説ヲ述ヘ國王
 ヲ第一等ノ地位ニ置キ三局會同シテ政ヲ議ス所
 謂議事院ナリ國政ニ關ハル事ハ先ツ其事ヲ起シ
 タル局ニテ同議決定シ次テ又他局ノ議ヲ經テ異
 論ナキ成之ヲ國王ニ奏シ其免許ヲ得テ初テ一定
 ノ國法ト為ス即チ國王ノ免許ヲ得ル日ヲ以テ其
 法ヲ施行スルノ日限トスルナリ又王室ヨリ議ヲ
 起ストアリト雖モ上下兩院ニテ異論アレハ之ヲ
 施行スルヲ得ス○上院ハ其議事官四百三十七人
 第一王族太子以下現今女王ノ贅婿ト第二不列顛ブリテン

ノ貴族第三代任貴族第四教化師以上四類ノ會集
 ナリ右ノ内王族及ヒ不列顛ノ貴族ハ世々其官位
 ヲ子孫ニ傳レレ代任貴族ト唱ルモノハ蘇格蘭並
 ニ阿爾蘭ノ貴族ヨリ五ニ人物ヲ撰舉スルモノニ
 テ官位ヲ子孫ニ傳フルヲ得ヌ即チ蘇格蘭ヨリハ
 十六人ヲ出シ毎年新ニ撰舉ス阿爾蘭ヨリハ二十
 八人ヲ撰舉シテ終身職ニ在リ教化師ハ宗門ニ係
 ルモノニテ英倫及ヒ阿爾蘭ノ合衆寺院ヨリ出ツ
 英倫ヨリ出ルモノハ總人數ノ内四人ヲ除キ他ハ
 皆終身官位ニ居リ阿爾蘭ヨリ出ルモノハ毎年四

人ツ、順番ヲ以テ議事ニ參ルナリ○上院ノ長官
 ヲ「カンセロル」ト云フ國璽ヲ預ル且上院ハ國政ヲ
 議スルノ外ニ刑獄ヲ司ルノ權アリテ國中最大ノ
 裁判ハ此局ニ止ル○下院ノ議事官ハ國民ノ撰舉
 スルモノニテ在職七年毎ニ交代スル法ナレド尋
 常七年ヨリ短キヲ例トス議事官ノ數六百五十八
 人アリ國內諸方ヨリ撰舉スル員數ノ法、次ノ如シ
 即チ英倫四十郡ヨリ百四十四人大學校二所ヨリ
 四人百八十六都府ヨリ三百二十三人ヲ撰舉シ合
 テ四百七十一人ナリヲ「イル」ト十二郡ヨリ十五人

西洋事情

三

五十七都府ヨリ十四人ヲ撰舉シ合テ二十九人ナ
リ蘇格蘭三十三郡ヨリ三十人七十六都府ヨリ二
十三人ヲ撰舉シ合テ五十三人ナリ阿爾蘭三十二
郡ヨリ六十四人大學校一所ヨリ二人三十三都府
ヨリ三十九人ヲ撰舉シ合テ百五人ナリ○下院ノ
長官ヲ「スピーク」ト云フ此長官ハ毎年議事院ヲ
開クトキ同局ノ議事官中ヨリ互ニ撰舉スルモノ
ナリ上院下院共ニ國政ニ關スルハ同様ナレトモ下
院ハ錢穀手形ノ「ヲ」ヲ議論スルノ特權アリ此特權
ハ上院ノ羨ハ所ナレトモ決シテ之ヲ他ニ許サズ總

テ金錢ノ「ハ」下院ニテ一定スレハ上院ヨリ之ノ
變スルヲ得ス○政府ノ號令ハ國王ヨリ出ルニ非
ラス王室ヨリ出ルモノト視做セリ王室ノ大臣十
四名アリ其内最モ權威アリモノハ第一錢貨出納
ノ權ヲ執ル宰相ニテ即チ大閣老ナリ第二賦稅事
務宰相第三刑法事務宰相即チ上院ノ第四內國事
務宰相第五外國事務宰相第六海外所領事務宰相
此外ノ大臣ハ王室ニ定位ナクシテ參議スルモノ
ナリ海陸軍ノ事務ヲ司ル○右ノ如ク律ヲ定メ國
内治乱ノ責ニ任スルモノハ國王ニ非ラスシテ事

務宰相ナリ故ニ宰相タルモ、議事院及ヒ國民ノ
 信ヲ失ヘハ事柄ノ是非ヲ論セスシテ其宰相ノ職
 ヲ免シ他人之ニ代テ其職ニ任シ國ノ爭端ヲモ開
 クヘキ難事ヲ平和シテ痕跡ヲ殘スヲナシ故ニ其
 政治ノ景況恰モ精巧ナル器械ノ如ク一體ノ内自
 カラ調和ノ妙機アリ若シ外ヨリ強暴ヲ以テ之ヲ
 壓スル歟或ハ内ヨリ互ニ不和ヲ生シテ離散スル
 等ノ一ナクハ此政治ハ天地ト共ニ永久スヘシ
 ○英國ニ於テハ政府ヨリ人ヲ教育スルハ法律ヲ
 建ルニナク多クハ宗門ノ社中ニテ學校ヲ設ケ國

中人々ノ意ニ任シテ其入用ヲ出サシムル歳ニ集
 ル所ノ金高甚多シ小學校ノ如キハ大概皆此法ニ
 由テ設ルモノニテ凡ソ少年ヲ教育スルニ金ヲ費
 ストノ多キハ世界第一ト云フ可シ但シ政府ヨリ
 ノ取締リヲキテ以テ或ハ此金ヲ用ルニ趣意ヲ失
 フトモアレハ政府ヨリ之ニ關係スルトアラハ隨
 テ又弊害ヲ生ス可キカ故ニ其利害得失知ル可ラ
 サルナリ學校ニ備ヘタル積金ノ利息並ニ毎年國
 中ヨリ寄附スル所ノ金高ヲ總計スルハ八年々四
 十萬ポンドニ及フヘシ○右ノ小學校ハ專ラ上等

中等ノ人ヲ教ユル為ニ設ケタルモノナレトモ近來
 ハ又貧賤ノ子ヲ教育シテ國ノ文明ヲ十分ニセシ
 トテ益、學校ヲ設ケ中ニ就テ日曜學校ト唱フルモ
 、アリ此學校ニテハ日曜日、夕毎ニ教授スルヲ
 以テ此名ヲ得タリ○千八百五十一年英倫及ヒ
 一、ル、スノ人口一十七萬九千二百九十九人ニ
 シテ尋常學校ノ生徒二百十四萬四千三百七十八
 人、日曜學校ノ生徒二百四十萬七千六百四十二人
 アリ故ニ之ヲ人口ノ數ニ比例ス、ハ尋常學校ノ
 生徒ハ人口ハ人三分六釐ト一人ト、如ク日曜學

校ノ生徒ハ人口七人四分五釐ト一人ト、如シ○
 學校ニテ人ヲ教育スルノ法ハ普魯士、荷蘭等ノ諸
 國ニ一等ヲ讓ルト云フモノモ、レ、其、實ニ然ル
 ト否ハ知ル可ラス但シ英人ノ學術工作ノ諸科ニ
 於テ他國人ニ超越スル所以ハ教育ノ行届タルニ
 非ラス唯其國律寬裕ニシテ人ヲ束縛セス人々ヲ
 シテ其天稟ノ才力ヲ伸ヘシタルニ由テ然ルナリ

海陸軍

英國ノ廣大ナルニ準スレハ兵卒ノ數モ必ス多カ
 ラサルヲ得ス然ルニ國民ノ數ト兵卒ノ數トヲ割

合ニスレハ歐羅巴州中ニ於テ英國ノ常備兵最モ
 少シ千八百五十二年ノ記載ニ從ヘハ國王ノ親兵
 千三百騎ト步兵五千二百人ト合テ兵數凡ソ十二
 萬九千六百二十五人之ニ大砲隊ノ兵一萬四千四
 百十人ヲ加テ總計十四萬四千零三十五人ナリ此
 内本國ニ在ルモハ僅ニ五萬千九百四十七人ニ
 シテ他ハ皆海外所領ノ地ニ備ヘリ又本國ノ兵ヲ
 二部ニ分テ三萬零三百五人ハ不列顛ニ備ヘ二萬
 千六百四十人ハ阿爾蘭ニ備ヘリ故ニ防禦ノ天陸
 軍ノ勢ハ遠ク海軍ニ及ハルルニ又英國ハ四方

海岸ノ地ト雖天險ノ要害アルニ非ラズ唯人力
 ヲ以テ防禦スヘキノ國ナリ往古北方ノ敵國ノ
 軍艦ヲ以テ急ニ其海岸ヲ襲ヒシニ地方廣遠防
 禦ノ力足ラスニテ敗衄ヲ取タルナリ是レ全ク
 要害ノ頼ムヘキモノナキニ由テナリ故ニ方今
 雖天英國ニ於テ海軍ノ武威ヲ失ハ、海岸ヲ防禦
 スル能ハルヤ一昔日ノ如クナルヘシ千八百五十
 年ノ陸軍ノ總數十四萬九千六百三十人此内步兵
 騎兵ノ士官五千八百七十九人ト大砲隊ノ士官
 九百四十三人ト同誓古士官九百四十三人ト
 大砲方九千二百一十九人ト大砲隊ノ士官九百
 四十三人ト同誓古士官九百四十三人ト
 人同誓古士官九百四十三人ト
 二軍馬ノ數九千八百六十六人ト
 百六十四人ト

英國一ハ兵卒ヲ舉ルニ定法ナシス、意ニ任
 ヒ軍役ヲ好ムモ、ヲ取テ兵卒トナス其給料ハ仕
 後ノ年數ト職業ノ異同トニ由テ多寡アリ即チ親
 兵ノ騎士ハ一日ノ給料一「シルリング九ペンス」乃
 至二「シルリング」尋常ノ騎兵ハ一「シルリング四」
 「親兵」歩卒ハ一「シルリング二」尋常ノ
 歩兵ハ一「シルリング一」ペンスト定メリ然レモ無
 事ノ日屯所ニ居ルハ食料ノ代トシテ六「ペンス」
 ヲ引、又衣服諸具モ官府ヨリ與スレバ其代トシ
 テ給料ノ内ヲ引クカ故ニ兵卒ノ手ニ受取ル高ハ

甚ク少シ但戰爭ニテ手痲ヲ蒙リタルモノ並ニ老
 年ニ及テ軍役ニ出ルヲ能ハサル者ニハ官府ヨリ
 扶助金ヲ與テ生涯ヲ終ラシム
 ○英國ノ海軍ハ往昔ヨリ熟練セル所ニテ國中第
 一ノ武備ナリ千七百零七年上院ノ議事官ヨリ女
 王「アンナ」ニ呈シタル上書中ニ云ク此國ヲ富強ニ
 為シテ榮名ヲ世ニ耀カス所以ハ海軍ヲ盛大ニシ
 テ貿易ヲ勉メ其守護ヲ為スニ由テナリ中略故ニ陸
 下海軍ヲ以テ國中第一ノ事務トシ專ラ之ニ注意
 シ給ハシ「臣等ノ深ク懇願スル所ナリ」此時ニ

於テモ上院ノ議事官ハ國內ノ人心ヲ察シテ上書
 シタルヲナレハ英人ノ海軍ニ意ヲ用ユルハ往昔
 ヲリ今日ニ至ルマテ同様ナルヲ知ルヘシ
 海軍ノ帆前船蒸氣船ノ數之ニ備ル大砲ノ數並ニ
 蒸氣機關ノ力ヲ馬ノ力ニ比例シタル數ヲ記ルス
 左ノ如シ但シ千八百五十年ノ書記ニ出ルモノ
 ナリ
 第一等ノ軍艦十九艘各、大砲百二十挺百十九挺乃
 至百十挺ヲ備ヘ砲數合テ二千二百十六挺
 第二等第三等ノ軍艦七十六艘各、大砲百四挺乃至

七十挺ヲ備ヘ砲數合テ六千百九十六挺
 第四等第五等第六等ノ軍艦百二十六艘各、大砲五
 十五挺乃至十八挺ヲ備ヘ砲數合テ四千八百七十
 三挺
 スル一ノ船七十九艘各、大砲十八挺乃至八挺ヲ備
 ヘ砲數合テ九百八十六挺
 河リノ船十六艘各、大砲六挺乃至三挺ヲ備ヘ砲數
 合テ七十八挺
 蒸氣「レガット」船二十二艘蒸氣力ノ總計一萬二千
 二百二十二馬力大砲ノ數合テ二百八十一挺

蒸氣スルル船四十二艘蒸氣力ノ總計一萬三千三百馬力大砲ノ數合テ二百五十一挺
 蒸氣スルル船三十八艘蒸氣力ノ總計六千七百四十八馬力大砲ノ數合テ百二十五挺
 蒸氣スルル船二艘蒸氣力ノ總計百二十馬力大砲ノ數合テ二十挺
 右ノ外番船ニ用ル第四等軍艦ノ蒸氣力總計三千八百馬力
 總計軍艦四百二十艘大砲一萬五千零二十六挺其内蒸氣船百十四艘蒸氣力合テ三萬六千八百八十馬

力但ニ蒸氣飛脚船ハ此數ニ算入セズ
 航海ノ士官水夫二萬九千五百人水戰ノ士官兵卒一萬三千五百人總計四萬三千人
 海軍ノ總督ヲロルド、ハイ、アドミラルト云ヒ海軍局ノ全權ヲ執リ士官ヲ命シ其褒貶黜陟ヲ為シ軍艦隊ノ法則ヲ定ル等ノ事務一切之ヲ司ル但シ海軍ノ大法ハ議事院ヨリ出ルナリ
 海軍士官トナルモノハ初メハ先ツ無役ニテ軍艦ニ乗り次テ手傳士官トナリ手傳士官ノ職ヲ勤ムルト六年ニシテ年十九歳ニ至レハ吟味ノ上ニテ

下等士官トナリ次第ニ等級ヲ進ムヘシ是等ノ進
 退ハ皆海軍局ノ評議ニテ定マルモノアリ又海軍
 ニ入ル前ニポルトマウスノ海軍學校ニテ教授
 ラ受クルモノハ例外ノ等級ニ登ル可シ○水夫ハ
 人々ノ意ニ任セテ仕役スレバ事變アリテ人數不
 足スル片ハ政府ノ威權ニテ強ヒテ海軍ノ水夫ヲ
 取ルトモナリ爾後年々蒸氣船ノ數ヲ増シ十八百
 六十三四年ニ至テハ大小ノ軍艦合
 ナリト云フ

錢貨出納

歐羅巴諸國ニテ英國ノ租稅最モ多ク千八百五十

四年ニ至テハ一歲ノ入稅五千七百萬ポントノ高
 ニ上レリ然レバ英國ハ他國ヨリモ收歛シテ民ヲ
 苦シムルニ非ラス唯其稅法宜キヲ得テ國民皆之
 ニ堪ルニ由テ斯ク夥多シキ高ヲ收ルナリ他國ニ
 於テハ或ハ其稅法公平ナラサルトモアレバ英國
 ニ於テハ然ラス貧富貴賤一樣ニ租稅ヲ收ルヲ趣
 肯トセリ英人ノ活計ニ苦ム所以ハ租稅ノ苛酷ナ
 ルニ非ラス衣食ノ高價ナルニ由テナリ然レバ衣
 食ノ高價ナルハ決シテ患フヘキニ非ラス却テ其
 國ノ幸ト云フヘシ其故ハ衣食高價ニシテ活計ニ

西洋事情 卷之三

苦ノハ人民止ムヲ得ヌシテ工業ヲ勤メ隨テハ新
 發明ノヲモ有テ國益トナレハナリ○英國ニテ收
 稅ノ大趣意ハ人生必用ノ品物並ニ製造物ノ内質
 素ナル粗品ニハ稅ヲ輕クシ奢侈ニ屬スル品物並
 ニ人命ニ害アル品物酒烟草類ニハ稅ヲ重クス蓋シ
 奢侈ニ由テ美品ヲ用ユル者ハ固ヨリ其高價ヲ拂
 得ハキノ理アリ又不幸ニシテ有害ノ物ヲ服用
 スルノ癖アル者ハ其物ノ高價ナルニ由テ止ムヲ
 得ハ自カラ服用ヲ禁ムルヲアルヘキノ理ナリ○
 一歲ノ入稅三分ノ二ハ諸港ノ運上並ニ國內產物

ノ運上ヨリ收納ス千八百五十二年一歲出入ノ會
 計左ノ如シ

歲入

三千百十七萬七千五百十二ポンド

港運上

六百七十五萬一千三百四十四ポンド

國內產物並ニ官許ノ運上

六百九十二萬一千二百九十九ポンド

證印稅

三百五十五萬九千六百七十二ポンド

地稅家稅等

五百六十五萬二千七百七十[」]ポ[」]ニ[」]

家產稅

二百四十四萬二千三百二十七[」]ポ[」]ニ[」]

飛脚印

三十五萬八千二百六十五[」]ポ[」]ニ[」]

政府所有ノ土地山林ノ運上

八十九萬二千四百二十七[」]ポ[」]ニ[」]

諸運上

總計五千七百七十五萬五千五百一十一[」]ポ[」]ニ[」]八十

百六十一[」]年ノ會計ニハ歲入七
千三百萬[」]ポ[」]ニ[」]シ余ニ上ルト云

歲出

二百六十三萬八千七百三十三[」]ポ[」]ニ[」]

港運上並ニ國內ノ諸運上ヲ取立ル雜費

二千七百九十三萬四千五百三十三[」]ポ[」]ニ[」]

國債ノ利息及ヒ其元金ヲ返シタル高

百五十八萬四千六百六十七[」]ポ[」]ニ[」]

文官定式ノ入用即チ王族ノ雜費政官ノ給料議
事院ノ入用等但シ國王自用ノ費ハ三十八萬[」]ポ[」]

シトナリ

二百十萬零四千九百九十六ポント

裁判局ノ入用

三十三萬二千四百六ポント

外國局ノ入用

一千六百十三萬五千九百五ポント

兵備ノ入用但シ本高ノ内陸軍ノ入用七百零一

萬八千六百六十四ポント海軍ノ入用六百六十二

萬五千九百四十三ポント大砲隊ノ入用二百四

十九萬一千七百九十八ポント

百三十四萬一千五百九十九ポント

飛脚場ノ入用

七十三萬一千三百九十九ポント

土工ノ入用

七萬七千五百三十三ポント

政府所有ノ土地山林ノ入用

十二萬五千二百八ポント

貿易場貸藏ノ入用

二百二十二萬三千六百八十八ポント

右ノ条々ニ載セサル諸雜費

總計五千五百二十二萬九千三百六十七ポント

附録

○英國ノ海外ニアル所領ハ甚ク廣大ナリ其大概
 ヲ舉レハ北亞米利加北方ノ地即チカナダ西印度
 南北亞米利加ノ地即チカリフォルニア喜望峰オーストラリア澳大利亞及ヒ東印度是
 ニアル地方ヲ云 故ニ本國ノ富饒ヲ致シ兵力強盛ナリト云フモノ
 ナリ世上一般ノ説ニ英國ハ海外所領ノ地廣キカ
 故ニ本國ノ富饒ヲ致シ兵力強盛ナリト云フモノ
 多シト雖モ其説當ラサルニ似タリ亞米利加州ヲ
 發見シテ人ヲ移シ喜望峰ヲ廻テ東印度ト貿易ス
 ルニ至テ其利益ヲ得ルノ洪大ナルハ獨リ英國ノ
 ニ非ラス歐羅巴諸國皆同様ナリ海外ノ地ヲ開

拓シテ其人民次第ニ文明ニ赴キ自カラ別政府ヲ
 建ツヘキノ勢ニ至レルモノヲ尚ホ其舊ニ依テ之ヲ
 屬地トナシ本國ヨリ支配スルト或ハ之ヲ免シテ
 獨立セシムルト何レ歟其本國ノ為ニ利益トナル
 ヘキ哉未ク其得失ヲ定メ難シト雖モ恐クハ其獨
 立ヲ許スノ方利益アルヘシ北亞米利加及ヒ西印
 度ニ所領ノ地アレモ今日ニ至ルマテ此領地ヨリ
 一錢ヲ收納シテ英國ノ費用ニ供シタルトナシ加
 之其土地ヲ守護スル為ニ多ク軍艦ヲ送り陸兵ヲ
 備ヘ其雜費ハ本國ヨリ出シテ領地ノ人民ハ却テ

之ヲ知ルコトナシ故ニ海外ニ所領ノ地アルトモ本
 國ノ利益トスル所ハ唯之ト往來シテ貿易スルノ
 一事ノミ然レモ海外ノ領地ト貿易スルハ外國ニ
 行テ貿易スルニ異ナルコトナシ凡ソ他人ト貿易ス
 ルニ於テ天然ノ理ニ後ヒ双方ノ利益トナルニ非
 サレハ其本國ノ為筋ト云フ可ラス若シ天然ノ理
 ニ後テ双方ノ利ヲ謀ルルハ所領ノ地ヲシテ獨立
 國トナラシムハ其利愈大ナルヘシ其實證ヲ舉レ
 ハ亞米利加合衆國ノ獨立シテヨリ以來英人常ニ
 此國ニ往來シテ双方ノ交際益繁盛シ貿易ノ利愈

大ナリ又北亞米利加ノカナダハ英國有名ノ領地
 ナレモ此領地ニ行テ貿易スルニ或ハ其土人ノ好
 マサル所ヲ犯スニ由テ時々難事ヲ生スルコトアリ
 且此地ヨリ輸出スルモノ一品ニテモ他國ヨリモ
 便利ニシテ價ノ廉ナルモノナシ海外ノ領地ト強
 テ貿易スルトモ固ヨリ害有テ益ナク且獨立ヲ欲
 スルモノヲ壓伏シテ屬地トナシ置カレニハ本國
 ノ入費甚タ大ナリ方今英國ニテカナダノ地方ヲ
 失ハサル所以ハ唯兵力ヲ以テ其土人ヲ鎮靜スル
 ニ由テナリ此大兵ヲ備フルノ費用一年百五十萬

利ントニ下ラス然ルニ其地ヨリ得ル所ノ利益ハ
 費ス所ノ高ヲ償フニ足ラス且識者ノ説ニカナダ
 ハ早晚獨立國ト為ル歟又ハ亞米利加合衆國ノ圖
 版ニ入ルハシト云ヘリ○又西印度ノ領地ニハ多
 ク砂糖ヲ産シ之ヲ英國ニ輸入シテ其運上ノ高甚
 大ナリト云ヘルモノアレバカナダニモ茶烟草ヲ
 産シテ之ヲ英國ニ輸入シ運上ヲ納ルルハ西印度
 ノ砂糖ニ異ナルヲナシ且西印度ニ砂糖ヲ産スト
 雖凡其品物ヲ輸送スル者ハ英ノ商人ナルカ故ニ
 英國政府ハ其國人ヨリ稅ヲ取ルナリ加之西印度

諸島ノ砂糖ハ「キューバ」西印度ニ領地「ブラジル」南亞米
 立國ヨリ輸入スルモノニ比スレハ其價却テ高キ
 カ故ニ此砂糖ヲ用ユルハ本國ノ損亡ト云フヘシ
 ○右ノ次第ニ付キ英國ノ盛大ナルハ其領地ノ廣
 キ故ナリト思フハ大ナル誤解ナリ海外ノ領地ニ
 行テ貿易スルハ他ノ獨立國ト貿易スルノ便利ナ
 ルニ如カス且所領ノ地ハ世界中諸處ニ散在シテ
 本國ヨリノ距離甚ク遠キカ故ニ戰爭ノ片ハ敵兵
 ノ襲撃ヲ受ケ易ク之ヲ守護スルニハ多少ノ工夫
 ヲ費シ軍用ヲ失ハサル可ラス反覆熟考スレハ海

外ノ所領ハ本國ノ勢ヲ弱クスルモノト云テ可ナ
 リ英國ノ富強文明ニシテ他ニ擢ツル所以ハ其地
 理ノ便利ニシテ產物ノ多キト人才ノ多クシテ政
 治ノ公正ナルトニ由テナリ既ニ地理ノ辨ヲ得又
 政治ノ公正ナルアラハ海外ノ領地ヲ失フト雖
 毫モ患フルニ足ラサルナリ○東印度ノ地方ハ他
 ノ領地ト異ナリ屬國ノ如キモノニテ時々英國ハ
 貢稅ヲ納ルルアリ然レ此貢稅モ世人ノ思フ如
 ク莫太ノ高ニハ非ラス之ヲ年々平均スレハ此細
 ノモノナリ○マルタ島地中海中ジブラルタル島地中海中

岸ノ如キハ軍艦商船ヲ寄セ戰爭ノ片ハ兵糧ヲ
 貯ヘ武器ヲ置キ此地ヨリ兵ヲ出シテ敵國ニ向フ
 可キカ故ニ緊要ノ領地ト云フヘシ
 海外ノ地ヲ領シテ本國ノ利益トナル所ハ過多ノ
 人民ヲ其地ニ移シ人々ヲシテ天稟ノ才力ヲ伸ヘ
 産業ヲ營ムヲ得セシムルニアルナリ毎年英國ヨ
 リ海外ノ地ヘ移住スルモノ甚ク夥多シ殊ニ亞米
 利加合衆國ニ元ト英國ノ領地ニテ言語同ク道程
 近ク氣候平和ニ且其國ニ移テ土地ヲ得ルヲ容易
 ナルカ故ニ英人ノコトニ居テ移スモノ最モ多シ

千八百二十五年ヨリ千八百四十九年ニ至ルマテ
 二十五年ノ間ニ英人ノ海外ニ移住シタル者ノ數
 左ノ如シ
 北亞米利加ニ在ル英國所領ノ地ニ移リタルモノ
 八十萬零八千七百四十人
 亞米利加合衆國ニ移リタルモノ
 百二十六萬零二百四十七人
 澳大利亞ニ移リタルモノ
 十八萬五千三百八十六人
 右ノ外諸方ニ在ル英領ニ移リタルモノ

三萬零八百一十一人

總計英國ヨリ出タルモノ二百二十八萬五千八百
 十四人ナリ

西洋事情卷之三

福澤氏藏梓



西洋事情 初編三冊刻成

同 二集 三集 近刻

華英通語 全一冊 刻成

此書... 卷之三... 八... 二... 八... 二... 八... 二... 八...

京都 出雲寺文次郎

書 大坂 伊丹屋善兵衛

尾陽 永樂屋東四郎

肆 東都 出雲寺萬次郎

岡田屋嘉七



早稲田大学図書館

011688985074